



コルテス 伊藤の我が音楽人生

第10回

先生方こんにちは。いつも読んでいただきありがとうございます。

毎日の体調管理に努力はしておりますが、一日一日と体力の衰え、記憶力の低下が増しております。皆さんはいかがですか？

糖尿は現状維持でギリギリで内服はしないでおります。コレステロールに関しては薬の内服で大幅に改善されました。とある内科の先生に長生きしたければ薬は飲みなさいと言われたのが本当なんだと実感しております。

さて、コルテスですがライブの集客は相変わらず厳しい状況に変わりはありません。またCDの売り上げも伸びませんし、どうしたらいいのかなんて悩んでいることは全くありません(笑)。ますます、私の独断と偏見で店は活動しております。10月にはピアノソロのCD、あとワンホーン+ピアノトリオの2枚をリリースする予定です。

前回、ジャズの存続を危惧した内容でしたが、思うと音楽のジャンルをつけてしまうことに問題があるのかもしれない。ROCK、JAZZ、POPS、JAPANESE

FOLKSONG などコルテスではますます多種多様なライブを今後行っていきます。クラシックのライブも予定されております。是非ともコルテスのホームページにアクセスしてください。



先日、季刊誌のアナログという雑誌の取材がありまして、我がコルテスが本に載りました。また、インタビューが元吉祥寺のJAZZ喫茶メグのオーナーの寺島靖国氏でありオーディオ的にも正反対な私との対談ゆえ、オーディオ巖流島の決闘と銘打ってもおかしくない内容でした。取材はあっという間に終わりまして、お互いに名残惜しく水戸駅でお別れしたのですが、先日寺島氏から電話が来ましてミュージックバード(寺島氏の番組)に出演して頂けないかとのこと。JAZZ 四方山話的な内容の番組らしいので



ですが、勿論、私はその場で依頼を快諾しました。

好きなCDを10枚くらい持って来てくださいとのことなので、上京前日にあれやこれや選びまして、勿論コルテス製作のCDも2枚ほど入れました。当日の日曜日、待ち合わせはFM東京4階に2時45分。私は早目に水戸を出まして御茶ノ水にてレコード漁り、少しだけ購入し、さて決戦の地半蔵門FM東京へ。

東京メトロ丸の内線に御茶ノ水から乗車、大手町乗り換え半蔵門線にスムーズに移動できました。時間があつたので喫茶で休み、歯磨きをして(笑)いざ決戦の地へ。

以前にROCKの番組でも収録した経験があつたものですから意外とすんなり収録は行えました。しかし内容は寺島氏のペース。かける音楽も正反対な二人ゆえ素晴らしいとかしっちゃかめっちゃか(笑)。意外と寺島さんは頑固な堅物おやじでして、それならこれで攻めたるかなど本気で戦っておりました。80歳にもなる大先輩に突っ込んであえなく撃沈しましたが(笑)。

帰り際に、寺島氏も何かを感じ取ったのかも一度ゲストに来てくれないかと私に言うので、もちろん瞬時に快諾。巖流島の再戦とあいなりました。今度は、ギャフンと言わせてやる心に誓い帰路につきました。

しかし、寺島氏は若い、ダンディだしやはり音楽にはアンチエイジング効果があると思いました。また番組のディレクターの太田さんは1970年代FM東京の大好きだった番組の渡辺貞夫さんのMY DEAR LIFEも担当していた(土曜日午前0時、正確には日曜日ではあるが)ということで、感激を通り越しておりました。

地下鉄を乗り継いだら都会人になった気がしました。また、アナログレコードが異常な高騰をしていることに、これでいいのだろうかとか自問自答している私もそこには存在しておりました。

どうぞ先生方、ご自分の趣味を大切に、そしてもう一步踏み込んで遊んでください。

(ひたちなか市

伊藤歯科医院・伊藤輝彦)